

11 番 堀 口

皆さん、おはようございます。受付番号2番、質問議員11番、堀口恵一。  
件名、「地域連携に『はこね金太郎ライン』の活用を」。

本年4月28日に「はこね金太郎ライン」が開通しました。この道の県道化は、足柄上地域と箱根町の地域連携を活発化させる目的で進められてきました。南足柄市、箱根町、開成町、大井町、山北町、中井町、松田町の議員をメンバーとする議員連盟として、平成18年に研究会を発足し、平成22年研究会でルートを絞り込むなどして、平成25年県の事業着手で本年開通の運びになりました。

道路自体は狭小で、普通の観光道のように高速で走ることはできないが、最低限の生活道、自転車観光道と割り切って使えば、いい使い方ができるのではないかと思う。他市町では期待していろいろ整備しているところではありますが、山北町としてもメリットを大いに享受すべきであり、今後の町の展開に結びつけるべきと思う。

そこで質問する。

1、「はこね金太郎ライン」の開通に際し、箱根町との地域連携についてどのような考えがあるか。

2、箱根町においては大型スーパーなどがあまりなく、仙石原などは美術館、ゴルフ場、大型観光ホテル、大型介護施設などがあるにもかかわらず、生活の場としては不便な場所となっている。既に小田原市、御殿場市からは仕事で通う人も多いが、新たに山北町から仙石原での雇用に貢献することも考えられるが推進してはどうか。

3、健康福祉センターから足柄峠へのランナーも増えている折、山北駅（健康福祉センター、ふるさと交流センターなど）からの観光ルートとして、洒水の滝を經由した箱根金時山、仙石原温泉なども紹介して、観光地連携を進めてはどうか。

以上です。

議 長

答弁願います。

町長。

町 長

それでは、堀口恵一議員から「地域連携に『はこね金太郎ライン』の活用を」についての御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の「はこね金太郎ライン」の開通に際し、箱根町との地域連携についてどのような考えがあるかについてであります。「はこね金太郎ライン」は、既存の林道を活用し、一般車両の通行ができるよう、南足柄市矢倉沢と箱根町仙石原をつなぐ県道731号（矢倉沢仙石原）として、整備され、令和3年4月28日に開通いたしました。

当初は、令和元年度までの開通を目指して整備が進められておりましたが、令和元年10月の台風19号の影響により開通が延期され、このたび復旧工事や必要な整備が終了し、無事開通の運びとなりました。

私も実際に通行いたしました。林道の拡幅を小規模にとめたことで、全体的にカーブが多く道幅が狭いため、対向車に注意が必要と感じたところがあります。また、標高約850メートル付近には「金時見晴パーキング」が整備され、開通日からゴールデンウィークにかけては、多くの乗用車やバイクなどが立ち寄ったと聞いております。

「はこね金太郎ライン」の開通は、箱根地域の渋滞緩和や、両地域の災害時の代替ルートの確保はもとより両地域にとどまらず、県西地域の広域連携が促進され、観光振興をはじめとする地域活性化なども期待されております。

本町といたしましても、「はこね金太郎ライン」と、令和5年度に開通予定の（仮称）山北スマートインターチェンジを活用した広域観光周遊ルートの強化を図るなど、県西地域や県域を越えた広域的な地域活性化につながる方策について、県や周辺自治体と一層の連携を図り、取り組んでいきたいと考えております。

また、県西地域2市8町と県、商工業や観光業、農林水産業の関係団体、金融機関、学識者、企業で構成する「県西地域活性化推進協議会」では、「県西地域活性化プロジェクト」を策定し、官民が連携した地域活性化への取組を進めており、令和3年3月にはプロジェクトの改定を行ったところであります。

改定内容といたしましては、県西地域の回遊性を高め、観光振興をはじめとする地域活性化や、災害に強い地域づくりを目指すため「はこね金太郎ライン」等の活用を図るとともに、地域のオンリーワンの魅力を生かした観光を推進するため、市・町の境を超えた周遊ルートの提案やプロモーションを

行うものです。

ウィズコロナ時代の変化の中で生まれる好機を的確に捉え、県西地域の強みを存分に生かし、プロジェクトを効果的に推進していくため、今後も引き続き、広域的な視点で箱根町などとも地域連携を図ってまいります。

次に、2点目の御質問の、箱根町においては、大型スーパーなどがあまりなく、仙石原などは美術館、ゴルフ場、大型観光ホテル、大型介護施設などがあるにもかかわらず、生活の場としては不便な場所となっている。既に小田原市、御殿場市からは仕事で通う人も多いが、新たに山北町から仙石原での雇用に貢献することも考えられるが、推進してはどうかについてであります。はこね金太郎ラインは、災害時の代替ルートや県西地域の観光振興をはじめとする地域活性化が期待されております。この道路の開通により、本町から箱根町へ通勤する際の利便性が、都内や近隣の就労地と比べて特段に高くなるというわけではありませんが、仙石原地域における就労の促進について、今後の状況を注視し判断してまいります。

次に、3点目の御質問の「健康福祉センターから足柄峠へのランナーも増えている折、山北駅（健康福祉センター、ふるさと交流センターなど）からの観光ルートとして、洒水の滝を経由した箱根金時山、仙石原温泉なども紹介して、観光地連携を進めてはどうかについてであります。近年、健康福祉センターを起点に足柄峠へ向かうランナーが増えているところでありますが、「はこね金太郎ライン」が開通したことにより、箱根方面を目指すランナーが増えることも考えられます。この新たな観光ルートの魅力を高め、ネットワーク化し、ランナーに限らず多くの観光客をこの地域に誘導するためには、関係自治体と連携した情報発信が重要と考えております。このため、関係自治体である箱根町、南足柄市、小山町との連携を緊密にするとともに、広域的な組織である県西地域活性化推進協議会なども活用しながら、連携と交流を充実してまいります。

議 長 11番、堀口恵一議員。

11 番 堀 口 1 番の広域的な視点で、広域的な視点で箱根町などとも地域連携を図ってまいりますということで、非常の前向きな回答ということで、かなり期待しているという感覚でよろしいでしょうか。

議 町 長 町長。

町 長 私も実際走ってみて感じたところですが、とにかく距離的には非常に近くなったというような感じをしておりますので、それに対して、やはり大勢の方が利用していただく。そういったようなきっかけになって、その延長線上にいろいろな山北町にとっても、南足柄や箱根町にとっても期待できるようなことがあるのではないかというふうに期待はしておりますけども、まだ開通して間もないわけですから、どのようにこれから変わっていくのか、注視していきたいというふうに思っております。

議 長 堀口 堀口 議員。

11 堀 口 このような状況なのですけれども、かなり開通したばかりで、この前も私近所でちょっと聞いたら知らないという人が結構いるみたいで、開通したばかりで山北の人にあまり知れてなくて、また有用性の認識も低く、また職場としての認識もまだ低いのかなという感じで受けております。

それで、ちょっとPRを兼ねた形で雇用連携の可能性をもうちょっとPRするのちょっと考えたらどうかと思って、山北求職者の箱根への雇用案内ツアーまたは箱根単身者会社員への山北定住ツアーの実施などで雇用の可能性をちょっとイベント的にやって交流を持てば、少しは宣伝というか、そういうことも可能なんだよというのができるんじゃないかなと思うのですが、ちょっとそういう考えはどうでしょうか。

議 町 長 町長。

町 長 実際に開通してから、お土産物屋さんというんですか、食べ物屋さんで、山北のことを聞かれるから、パンフレットは頂きたいということで、パンフレットが届けましたけども、実際に、そういったようなことでない限り、案内看板とか何かほとんどない夕日の滝等、そのようなところしかないような状態ですので、山北のこともほとんど分からないというようなことだけではね。ですから、そういったような工夫は必要になるというふうに思っておりますので、これから、どのようにどういったようなことを伝えていくかということが大事だろうというふうに思っています。距離的なことで考えれば、せめて洒水の滝の看板ぐらいはあっていただきたいというふうに思っておりますけども、当然、そこから先の例えば、三保ダムとかそういったとこで今

SUPとかそういうのも町としてやっておりますけども、そういったようなことも情報発信としては非常に今現在は難しいというふうに思っておりますので、それをどういうふうに伝えていけるか。これからの問題だろうというふうに思っております。

議 長 副町長。

副 町 長 私も実際走っているのですが、全長11キロの中で中央分離線があるところはないんですよ。それで、この辺の国道とか県道のラインでいくと、片側の1車線の中に相互通行で来ているようなところがあるという。そういうような状況であった中で、急カーブのところは2車線になっていますけれども、町長のほう、今おっしゃるとおり、観光の面、それから渋滞緩和の対策、それから災害の面で非常に有効だと思います。ですが雇用の関係で、山北町から箱根の仙石原に通う、または仙石原から山北町に通うというところは、毎日その関係で雇用の促進になるかという、ちょっと今の状況だと注視していかなきゃいけないというような状況になってございますので、その辺は御理解いただきたい。

議 長 堀口恵一議員。

11 番 堀 口 雇用の関係なんですけど、ちょっと箱根のほうも結構逼迫といいますか、箱根町では、雇用推進のために、介護施設従業員などに年間20回分の日帰り温泉券を配布するなど、行政でもやっていることがあるほど雇用に苦慮しているという状況もありますので、ちょっと助けるという感覚を持っていただければという感じもあります。ちょっと出した次第であります。その辺の向こうの状況というのは、どの程度で認識されていますでしょうか。

議 長 副町長。

副 町 長 雇用の関係なんですけど、先ほど申しました全線20キロの通行規制、時速20キロまでしか出せないわけですね。毎日仕事に山北の方が、例えば行って1車線の中で対面通行になっているときに毎日行って疲れて帰ってくるというときに、その辺は町として推奨して、その辺のところはお疲れになっている町民の方が一日仕事やって、そこを通過して帰ってくる。確かに近道になるんですけども、もうちょっと注視していきたいというふうに。観光の面とか、災害の面とか、迂回路の面とかいうことは非常に有効だとは思いますが、

通常毎日使っている面では、ちょっと今の段階だと町としても考えていきたいというふうに思っております。

議 長 堀口恵一議員。

11 番 堀 口 分かりました。そうしましたら、今度観光の面で3番ということで、先ほども観光案内の話があったと思うんですけども、私も実際に登ってみまして、上行きますと金時見晴パーキングと、一応南足柄市の駐車場ですか、あるんですが、その看板を見ると夕日の滝、丸太の森、アサヒビール、おんりーゆー、最乗寺、道の駅など観光スポットは書いてあるんですが、南足柄市のポイントのみで、ほかの駅にはうっすら松田とかインターとか書いてあるんですけど、うっすら書いている。書いてないわけなんですね。せめて山北の洒水の滝、またさくらの湯ぐらいは加えてもらうべきだと思うんですけども、逆に、単に単純にお願いしますでは申し訳ないんで、こちらも御前場線のほうに駅に看板がありますので、そちらに逆に向こうの金時山や箱根を書くというギブアンドテイクで何かできるんじゃないかなと思ったんですけども、どうでしょうか。

議 長 町長。

町 長 基本的には、道路管理者が県であれば県のほうにお願いして、そして箱根町さんと山北町のそういったような部分があるとすればおっしゃるようなことはあるというふうに思っておりますけども、最初はどっちにしてもつくっていただいた県のほうのところできたらそういったような看板とか、そういったものを要望していきたいというふうに思っておりますので、その次に箱根町とか南足柄市さんとの今度は要望というふうになるかというふうに考えております。

議 長 堀口恵一議員。

11 番 堀 口 昨日、山北駅のやはり駅にあります山北観光案内図というのが、山北駅のホームにあるんですね。健康福祉センターの裏方になりますが、それは結構大きな看板ですけども、ただ、電車から見るとなかなか十分見れないような感じでして。中にはちゃんと「さわやかな風がふきぬける きらめきと交流の町」とあり、河村城址・洒水の滝コース1時間45分、大野山コース3時間、高松山が3時間20分と書いてあって地図もあるんですけども、うっすら

していて、ちょっと草もこんなふうにかかっています、あまり電車で来た人が見れないのかなというくらいになっちゃってまして、今の状況、最近電車の状況見てますと、結構こっちの松田方面から小山町に行く電車見てますと、朝、結構通勤電車乗っている方多いんですね。5時頃で、向こうから、5時過ぎて小山方面からこっちに乗ってきたときも、やっぱり結構通勤帰りの人で何か補助の話したり何かしている人もいまして、割と乗っている人もいるので、その目に、視点にちゃんと入って、ここに例えば足柄峠ランナーコースとか、箱根金時山サイクルコースとか、さくらの湯、D52鉄道公園とかいう、今まで書いてない、追加してほしいのが足柄峠ランナーコース、箱根金時山サイクルコース、さくらの湯、D52鉄道公園もここにあるんだというのが出発地点としてもあるんだというのが分かるような記載をして、もっとでかくしちゃって、駅で認識されるようにするというのもちょっと、昨日、駅に行って、はたから見て思ったんですけども、どうでしょうか。

議 長  
商 工 観 光 課 長

商工観光課長。

山北駅のところ辺に健康福祉センター側にある看板のことをおっしゃられているのかなと思っておりますが、そちらの部分、確かにかなり経過しているものなので、まず今の時間的にはちょっと記載内容が若干ずれが出ている部分はあるかもしれません。ただ、それを今度大きくしようという形になりますと、あの土地がたしかJRの敷地内にあつたと思いますので、そこについては、やはりJRとの協議なども必要になりますので、まず、どのような形ができるかはちょっと考えさせていただきたいと思います。

以上です。

議 長  
11 番 堀 口

堀口恵一議員。

今の答弁ですけど、もしJR側にできなければ健康福祉センターの壁側だったら可能なんでしょうか。例えばですね。

議 長  
商 工 観 光 課 長

商工観光課長。

やはり駅の利用者の方が見やすい場所となった場合、その健康福祉センターが目線的にもいい場所かどうかも含めての検討が必要だと思っておりますので、そこも、一応検討の一つにさせていただきたいと思います。

以上です。

- 議 長 堀口恵一議員。
- 11 番 堀 口 前向きな話が聞けましたので、最後に町長の話をいただいてから終わりにしたいと思います。
- 議 長 町長。
- 町 長 おっしゃるように、堀口議員のおっしゃるようなことは可能であればやってみたいというふうには思いますけども、実際に行政でいうと、広域でやる前には、広域のそういったような組織の中でいろいろな観光案内であるとか、そういったようなものを今刷ったり、マップを作ってやっております。しかし、単独でやるということになると、やはり山北町の関係したところが主になるというようなこととなりますので、そういったようなものをどの程度全体としてできるか。そして、今皆さんがほとんど情報を使うのにSNSやスマホみたいなものを使いますので、そういったようなものを通じてどのように発信できるかというのが我々に課せられた課題だというふうに思っておりますので、そういったものをかなり磨きをかけて情報を発信していけたらいいなというふうに思っております。
- 11 番 堀 口 では、終わります。